

主題「生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒」の育成

1 主題設定の理由

家族や社会の在り方が変化し、従来当たり前とされていた社会通念や価値観が多様化する昨今、身の回りの技術も日進月歩の進化を遂げ、より豊かで便利な生活ができるようになってきている。一方、家庭生活や社会環境の変化によって、日本が少子高齢化社会、さらに超高齢化社会に直面して生じる影響や生成 AI 使用時のハルシネーション（事実と全く内容や文脈と無関係な内容などが出力されることがある）など、今までにない新たな問題に直面することが考えられる。

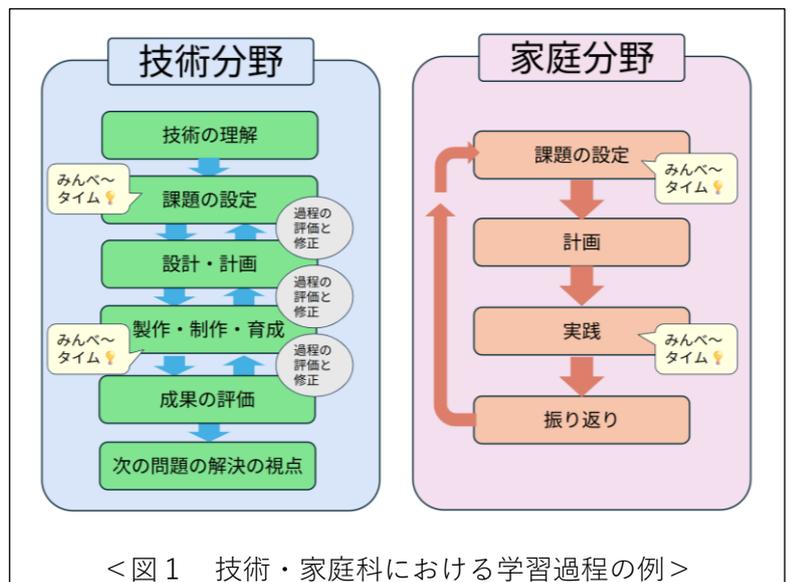
よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる生活を工夫し創造する資質・能力の育成が、技術・家庭科における目標である。そこで、本研究では、現代の生活や社会の中から問題を見だし、「理想とする姿」に向けた探究的な学びを通して課題解決を目指すことで、課題を解決できた達成感や実践する喜びを味わい、主体的に学習に取り組みながら普段の生活においても問題を自分事として対応できるようになると考え、実践研究を行っていく。また、生徒一人一人が考える「よりよい生活や持続可能な社会が実現された未来の姿（理想とする姿）」に向けた、新しい考えや方法を生み出す学びを設定することで、技術・家庭科の学びに対してエージェンシーを発揮し探究的に学ぶことができると考える。こうした探究的な学びを通して技術・家庭科の目標を達成し、身に付けた資質・能力を生活や社会の中で生かすことで、多様化する社会を生き抜く力を身に付け、今後の人生に生かせるようにしたい。

以上のことから、今年度も継続して研究主題を「生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒」の育成とし、探究的な学びを実現するための具体的な手立てを通して実践研究を進める。

2 生徒がエージェンシーを発揮し、探究的な学びをデザインするための具体的な手立て

(1)自分事化して課題解決するための学習過程

技術・家庭科では、生活や社会の中でどのような問題に直面しようとも自分なりの判断をして解決することができる力を育成することが大切である。そこで、今年度は各分野における学習過程（図1）を生徒と共有することで、各題材において生徒の学習のデザインに基づく探究的な学びを行う。技術分野では、学習過程を学習指導要領に示された「技術の理解」「課題の設定」「設計・計画」「製作・制作・育成」「成果の評価」「次の問題の解決の視点」の6つの過程とする。また、家庭分野では、学習過程を学習指導要領に示された「家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例」を基に「課題の設定」「計画」「実践」「振り返り」の4つの過程とし、生徒と共有する。



<図1 技術・家庭科における学習過程の例>

特に、「課題の設定」では、生活の中から問題を見だし、見いだした問題に対して「どうあるべきか」という「理想とする姿」を考え、学びのゴールを明確化していく。「課題を設定する上では、現実の状況と理想の姿との対比などから問題を見だし、課題意識を高めることが大切となる」と、文部科学省も記載している。「設計・計画」や「計画」では、課題を解決するためには「何をどのように学ぶか」を生徒自身が考えることで、一人一人がエージェンシーを発揮しながら学びをデザインし、学習計画を立てていく。これらの学習過程を生徒と共有することで、生徒の学習のデザインに基づく探究的な学びを目指す。さらに「みんな〜タイム（試しの時間）」を各分野の課題設定の場面や問題解決の場面等で生徒の希望に応じて設けることで、技術・家庭科の学びに対してエージェンシーを発揮し、AAR サイクルを回し見通しをもって生活や社会における実践を含めた課題解決に向かえるようにする。

(2) 課題解決に向けた「My Project シート」の活用

昨年度の実践では、理想とする姿から題材の課題を設定することで、課題解決に向けて自分事として対応し、「理想とする姿」に向けた探究的な学びを実現することができた。今年度は、生徒自身が学びをデザインすることができるような「My Project シート」を活用することで、課題をより自分事として捉え、エージェンシーを発揮し、探究的に学ぶことができるようにする(図2)。「My Project シート」は、課題設定後、単位時間ごとに課題を解決するために必要な学習を考え学習内容を記入するとともに、毎時間の終末の場面で振り返りを記入することができるようにしたものである。「幼児の体の特徴について知る必要がある」「実践に向けて練習ができる」とよい」「おもちゃを製作してみるのはどうだろうか」など、課題解決に向けてどのような学習が必要かを生徒自身が考えることができるようにする。また、毎時間、学習の進み具合やこれまでの学習内容に応じて計画を見直し、改善することができるようにする。

図2は「My Project シート」の一部を示しています。各セクションは以下の通りです。

- 題材名**: 幼児の生活や家族
- 理想とする姿**: 幼児に対して深い理解をし、正しく世話をしたり、優しく接することができる。
- 課題**: 乳幼児について知り、上手に接して、乳幼児と楽しく生活するためには、どうすればよいだろうか。
- 問題**: 幼児のあやし方、泣いている時の接し方、抱っこ仕方、感情表現の仕方(感情の読み取り方)を知らない。
- 計画**: 振り返り、乳幼児について知る、学んだこと、次回に向けて(・どういつ時期、・特徴)。
- 振り返り**: ①課題解決に必要な知識・技能を身につけた。②課題解決に向けて解決方法を考えたり、新しい方法を考えたりした。③学習したこと基に自分の生活を工夫したり、創造したりしようとした。
- 学習した内容**: 数字①~③

<図2 「My Project シート」の一部>

このように「My Project シート」を活用することで、課題をより自分事として捉え、課題解決に向けて生徒自身が学びをデザインし、自分なりの判断をして解決する力が高まることを目指す。

3 授業実践例

(1) 題材 幼児の生活と家族

(2) 実施時期/学年/配当時間

令和7年4月~9月/第3学年/全8時間

(3) 題材の目標

幼児の発達や生活の特徴を知り、工夫して関わるができる。

(4) 実践の概要

第1時では、生活や社会の中から問題を見だし、課題の設定を行った。問題を見いだす場面では、「幼児がよく泣くことは知っているが、泣いているときにどう対応したらよいか分からない。」や「年齢ごとの遊びやご飯の食べさせ方、接し方が分からない。」という事柄が挙げられた。このような問題から「理想とする姿」を考えたところ、「幼児についての正しい知識を知り、喜ばせることができる。」「世話の仕方を知り、どのような状況でも対応し、上手に接することができる。」などが挙げられた。これらを踏まえ、理想とする姿に近づくために、本題材の課題を「幼児について知り、上手に接して喜ばせて、将来幼児と楽しく生活するためにはどうすればよいだろうか」や「年齢ごとにどのような接し方ができれば安心安全な子育てができるだろうか」などと設定した。

第2時では、第1時に設定した課題を基に、「My Project シート」を活用し、生徒自身が課題を解決するために必要な学習を考えた。生徒は単位時間ごとに「乳幼児・幼児について調べる→お世話の仕方・接し方を調べて考える→楽しく過ごすための工夫を考える→保育実習→振り返り(改善点やよかった点を見つける)→これからに生かせることを考える」や「幼児の特徴について知る→喜ばせる方法や好きなものを知る→模擬練習をする→保育実習→振り返り・これからの生活について考える」といった学習計画を立てていた(図3)。どのような学習が必要かを生徒自身が考えることで、それぞれが学びをデザインする姿が見られた。

第3時は生徒が自分で考えた学習計画を基に、探究を進めた。幼児の

図3は生徒が立てた学習計画の抜粋です。

- 計画**
- 乳幼児・幼児について調べる。**
- 体や心の発達、生活など**
- お世話の仕方、接し方を調べて考える。**
- 5歳児の特徴などを知る。(主に年中)**
- 楽しく過ごすための工夫を考える。**
- 実際に幼児と触れ合うときに何を考えるのかを考える。**
- 保育実習**

<図3 生徒が立てた学習計画(「My Project シート」より抜粋)>

体の特徴や遊び方、幼児との上手な関わり方について考えたり、調べたり、練習したりしていた。ある生徒は本時の振り返りに「体や心の発達、生活などを調べた。幼児が社会性を身に付けるために、周りの人や大人の存在が大切なものだと分かった。幼児が心身共に成長していくために、個々の個性を理解していくことも大切だと思った。保育実習では年中さんに関わるので、次回は、5歳児の特徴と接し方を調べていきたい。」と記述しており、「5歳児の特徴などを知る」を学習計画に追加するなど、始めに立てた計画を見直し、修正する様子が見られた。

保育実習を終えての振り返りには、「今後ももし幼児と関わる機会があったら今回は肯定しかできなかったことが幼稚園の先生と違ったので上手い注意の仕方なども知りたい。」「未来創造科で保育士不足について探究していて今回幼稚園に行ってみて子どもを一人一人見てあげることとはとても難しいことだなと感じた。少しでも改善できるように今回の保育実習を活かしていきたい。」などの記述があり、学んだことを今後の探究に活かそうとする姿が見られた。

4 研究の成果と課題

成果として、技術分野においては、課題解決に向けて計画を立案し、計画に基づき実践的な活動を行った。特に「材料と加工の技術」の製作活動においては、「まだ底板や仕切り板のけがきができていないので、次回追加でけがきをしていきたいです。」といった振り返りが見られ、計画を修正しながら製作を行っている生徒が多く見られた。このように必要に応じて計画を修正しながら製作を継続することで、自ら立てた学習計画を自己調整する力を身に付けることができた。家庭分野においては、「泣いているときにどう対応したらよいか分からない」という問題から、「どのような状況でも対応できるようにする」という「理想とする姿」を考え、「幼児について知り、上手に接して喜ばせて、将来幼児と楽しく生活するためにはどうすればよいだろうか」という課題を設定した。これは、自分の生活や将来に目を向け、「理想とする姿」を考えることで学びのゴールを明確化し、題材の課題を設定することができた姿である。また、探究を進めていく中で、「幼児の接し方を知る」という始めに立てた計画に「遊びなど」という具体的なものを追加したり、「模擬練習をしてみる」といった内容を追加したりするなど、生徒それぞれが課題の解決策を構想し、学びをデザインすることで、自分なりの判断をして解決する力を高めることができた。

課題として、生徒それぞれが学習計画を立てたり、必要に応じて計画を修正しながら探究を進めたりすることで、学びをデザインすることができるようになってきた一方で、振り返りの内容において「よりよい生活を創り出す」という面で不十分なことが挙げられる。本時の授業で分かったことや、次時で生かしたいことなどを記述できる生徒は多いが、学んだことをどのように生活や社会に生かすことができるか、というよりよい生活の実現に向けて具体的に考え、実践することには困難さが見られた。また、題材全体を振り返る場面で「理想とする姿」に立ち返ることで、学習を通してどのくらい近付くことができたかを振り返ることができるだけでなく、自分でデザインした学習がどのくらい有効であったか、次の題材ではどのような学習計画を立てていければよいかを考えるきっかけになると考える。学習計画と振り返りの両方の充実を図ることで、よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる生活を工夫し創造する資質・能力の高まりを目指していく。

5 今後の展望

今年度の研究を継続しながら、振り返りの充実を図っていきたい。振り返りの場面では、次時に向けての振り返りに加え、生活や社会にどう生かすことができるか、といった内容が見られるような手立てを講じることで、学習したことを実生活へと活かすことができるようにしていきたい。また、生徒の振り返りから、未来創造科とのつながりを見ることができたため、今後も未来創造科や各教科等とのつながりを生徒自身が感じることができるようしていきたい。

<参考文献>

- 群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランII』.
- 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』,開隆堂.
- 文部科学省 (2023) 『今、求められる力を高める 総合的な探究の時間の展開』,アイフィス.
- 文部科学省 (2023) 『初等中等教育段階における 生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン』.
- 白石 俊 (2020) 『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』,ミネルヴァ書房.